



# しゅら

平成10年

12月号



▲サンタさんからのプレゼントに大喜び



▲メリークリスマス！



▶子どもたちの元気な歌声が響きます



◀いかがですか？ケーキの味は

サンタクロースが  
やってきた

12月15日、コミュニティセンターで「第18回合同クリスマス会」が保育所の子どもたちはもちろん、老人クラブのみなさんも招待してにぎやかに開催されました。

当日は雪が全くない日で子どもたちはサンタさんが来れるか心配そう。しかし、いつも良い子にしている子どもたちの期待に応え、魔法の空飛ぶそりに乗って登場。サンタさんからのプレゼントに子どもたちは大喜びでした。

# 上ノ国町と友好町村締結10周年

## 新たなる時代へ飛躍



▲上ノ国町からの代表を迎え、盛大に行われました

北海道上ノ国町と市浦村が昭和六十三年に友好町村の締結を結んでから十周年を迎え、十一月六日にあすなるホールで記念式典、コミュニケーションセンターで交流会が行われました。

### 安東氏が 取り持つ縁

上ノ国町は、かつて安東氏が

移り住み、本村と交流があったとされてきました。そこで上ノ国町は昭和六十三年に開基八百年を迎え、それを機に海峡を越えた文化交流を復活させること

を目的に当村へ友好町村の締結を申し入れてきたことがきっかけとなった。友好町村の契りを結びこととなり、両町村間での交流が始まりました。平成元年七月、上ノ国町の青年有志が安東船の足跡をたどろうとヨットで津軽海峡を横断したのをはじめ、以後十年間にわたって教育、文化、産業、経済全般にわたって親善交流が行われました。

また、今年の八月八日に開催された「姫神・奥津軽十三湖コンサート」で両町村の児童が共演を果たしたのは記憶に新しいところです。

### 新しい時代を地域間の 交流で切り拓く

当日は、上ノ国町から福原賢孝町長、三浦安則町議会議長、各種団体長を迎え、市浦村からは高松隆三村長、浜田春土村議会議長、村議会議員、各種団体長が参加。両町村合わせて約百二人が式典に出席しました。式典ではまず高松隆三村長が



▲握手をかわす両町村長、両議会議長



▲記念講演を行う榎森氏

「これを契機に両町村が相互補完、相互連携をさらに深め、共通認識をもつことが混迷する時代の良き羅針盤になるものと思います。」とあいさつ。次に上ノ国町の福原賢孝町長が「人類



がはじめて迎える二十一世紀が  
 間近に迫っており、今後  
 も交流の輪をさらに広げ、地域  
 の活性化をはかっていきたい。」  
 と挨拶し、その中で両町村長と  
 も十年前の友好町村締結の際活  
 躍された上ノ国町の故 森定蔵  
 町長、市浦村の故 三重喜町長  
 に感謝の意を表し、ご冥福を祈  
 りました。

記念式典終了後は、関東東北地  
 域文化研究所の世森正所長によ  
 り紹介が行われ、最後は両町村  
 長、両議会議長に花束の贈呈が  
 行われました。



▶両町村の交流を祝して乾杯

る記念講演行われました。講  
 演の中で世森所長は「二十一世  
 紀を新しく創造していくために  
 は、小さいものが集まってきた  
 力を出していく視点が重要で、その  
 ための手段として他の地域と交  
 流をもつことは非常に有効な手  
 段である。そのことによって情  
 報がおこり、新しい創造があ  
 る。」とこれまで交流を続けて  
 きた両町村を激励しました。

### 友好を深め合った 交流祝賀会

交流祝賀会は会場をコミュニ  
 ティセンターに移し、関東地区  
 「ふるさと市浦会」の葛西孝会  
 長の乾杯によって開始。両町村  
 の参加者が杯を交わしながら過  
 去十年間の交流を振り返り、新  
 しい時代へ向けてより一層の友  
 好親善を深め合いま  
 した。また、ステー



▲マサ三浦さんによる歌と演奏が披露されました



▲両町村の友好も女性の力があってこそ

ジでは中里町出身、県立金木高  
 等学校相内校の卒業生で、現  
 在は青森県内で音楽活動をされ  
 ているマサ三浦さんを迎え、「歌  
 の夕べ」と題してのショーが披  
 露されました。ステージでは  
 「時を越えろ」などのオリジナ  
 ル曲をはじめ、津軽じょんから  
 節をアレンジした「じょんから  
 マンボ」など教曲を披露。曲奏  
 では三味線風のギタープレイも  
 飛び出し、会場から大きな拍手  
 が起こっていました。



▲会場は和やかな雰囲気包まれていました



◀これまでの交流を振り返り、話の花が咲きます

## 第四回 関東地区「ふるさと市浦会」交流会

# 懐かしい顔ぶれが揃いにぎやかに

### 「ふたたび品川で開催」

関東地区周辺に在住する市浦村出身者が一堂に会する機会が欲しいとの要望に応える形で平成七年に「ふるさと市浦会」が発足。これまでに平成七年、八年に東京都品川プリンスホテルで開催、平成九年には地元市浦で開催されており、今年はいよいよ東京品川プリンスホテルで開催されることになりました。交流会ではまず高松隆三村長

から地元市浦村の近況報告が行われ、「我が村をどのように飛躍させるかを常に考え、他町村と競争しても、めぐさくないようにハードとソフトを含めた工夫を続けている。関東地区ふるさと市浦会の皆さんには、これからも声援を送ってほしい」とあいさつ。引き続き葛西孝ふるさと市浦会会長が「我がふるさと市浦村が著しい発展を遂げていることは大変喜ばしく、行政に携わる方々に感謝します。関東地区ふるさと市

浦会としても、村発展のためにできる限りのお手伝いを続けていきたい」とあいさつ。浜田春土村議会議長の乾杯によって交流会が始まりました。



▲あいさつをする葛西会長



▲あいさつをする高松村長

浦会として、村発展のためにできる限りのお手伝いを続けていきたい」とあいさつ。浜田春土村議会議長の乾杯によって交流会が始まりました。



▲浜田議員の会図で乾杯

### 「ふるさとの味が大好評」

今年で四回目となる関東地区「ふるさと市浦会」交流会が十二月五日東京都・品川プリンスホテルで開催されました。当日は、村からかけた六十五名、関東地区周辺から百二十名の参加者が集まり、交流を深めました。

交流会で用意された食事は地元から持ちこまれたシジミ貝や市浦牛が使用され、さらに地元ならではの味付けがされ大好評。また、会場のあちこちではかつてのクラスメイト、親類、家族等が再会を喜び、握手をしたり抱き合う光景が見られ、またある人は久々に会った孫の成長した姿を見て喜場面もありました。



▲地元の食材が地元の味つけて提供されました

アトラクションの部では市浦会の代表と市浦村の代表によるカラオケ大会が行われ、市浦会代表の米谷健雄さん（相内）と志田由江さん（太田）には、品川プリンスホテルの宿泊券が贈られました。また、十三の砂山踊り保存会のみなさんによる「十三の砂山踊り」、そしてフィナーレは会場が一体となった「しゅら音頭」で幕を閉じました。交流会を終えて帰路につく参加者からは笑顔があふれていて、来年も品川での再会を誓い合っ

て会場を後にしました。

# 交流会スナップ集



▲「ふるさと合唱団」設立(?)



▲会場には笑顔があふれていました



▲しじみ汁の懐かしい味に大満足



▲お孫さんと記念撮影



▲「十三の砂山踊り」の  
出張もありました



▲ふるさとのメロディーに  
思わず体が動きます

地元の人と地元の言葉で会話するとほっとする。ただ、もっと若い人たちにも集まってほしい。



▲旧友と記念撮影 (右)

三浦由紀雄さん  
(相内地区)

あけてきました。

同級生に会えるのが楽しみで参加しています。特に同級生そっくりの息子さんと会うことができ、さらに懐かしさがこみ



三和 克徳さん  
(相内地区)

参加者からの  
コメント

お盆や正月の帰省とはまた違った楽しさがありました。こういった機会を作ってくださいことに感謝します。



本山 幹子さん  
(十三地区)

かつての同級生たちと再会できてすごく楽しかった。これからも交流会を続けてほしい。



▲再会を祝して記念撮影 (右から2番目)

重松 秀子さん  
(脇元地区)

地域ぐるみで福祉を考える

# 共同保健・医療・福祉計画会議

十二月九日、コミュニティセンターで「第二十九回市浦村共同保健・医療・福祉計画会議」が開催され、村内各団体関係者約六十人が出席しました。

## 住民と行政が一体となつて高齢社会へ対応

この会議は、高齢社会等への確に対応し、地域の住民一人ひとりが楽しくすやかな人生を全うすることができるよう、住民・行政が一体となり、地域ぐるみで保健・医療・福祉に対する取組みができる体制を作ることを目的として開催されているもので、今年で二十九回目となりました。

午前部ではまず高松村長が「いくら平均寿命が延びたとしても寝たきりでは意味がない。市浦村がスローガンとして掲げる人生を表現するために、これからは福祉も医療も大きく変わっていかねばならない」とあいさつ。続いて百石病院の副院長である川原田氏による「介護保険の基礎知識」と題し

た講演が行われ、医療を行う立場から介護保険制度は、行政と住民の信頼関係が大切であり、介護保険の基盤は地域ぐるみで作るという意識が必要と、また一層の連携強化を訴えていました。

## 参加者の高い関心が表れたグループワーク

午後の部では、「市浦村にお



表彰を受ける参加者



▲川原田氏による講演が行われました

ける包括ケアシステムづくりの構想を考える」と題して、各地区ごとに別れたグループワークが行われ、次のような意見がありました。

- 利用不能となつた施設を改良して、老人の憩いの場として活用したどうか。
- 各種団体との連携を強化したい。
- 高齢者に配慮した施設の整備をしてほしい。
- 町内会の事業の中に、保健・医療・福祉に関する事業を盛り込んだらどうか。

その他にも、医療体制の強化や、介護保険制度に対する危機感を感じる意見、福祉に対する村民の抜本的な意識の転換を求める意見もあり、参加者の保健



▲積極的に意見の交換が行われました

医療・福祉に対する高い関心が表れていました。

また、当日は平成十年度の健康づくり事業の表彰も行われ、次の方々が受賞されました。

### 平成十年度

#### 健康づくり事業表彰者 (敬称略)

- ◇三歳ムシ歯ゼロ児表彰  
小寺賢士(脇元)・土藤史生(相内)
- ◇北沢推幸(相内)・木村哲博(相内)
- ◇健康づくり作品展入賞者  
▽ボスターの部入選  
中島佳孝(十三小一年)・秋田谷久仁(五相内小一年)・佐藤方俊(相内小一年)・今野俊佳(十三小二年)・葛野達太郎(脇元小二年)・土岐香葉絵(太田小一年)・石岡剛宗(脇元小三年)・山田小春(相内小三年)・成田智哉(相内小三年)・浜田芽里(十三小四年)・吉田亮(相内小四年)・三和勇士(相内小四年)・長利美聡(太田小五年)・村元真美(脇元小五年)・岡実(太田小六年)・奈良暉(十三小六年)・笹山雅博(脇元小六年)・三上佳子(相内小六年)
- ▽標語の部入選  
笹山高敏(市浦中一年)・伊藤翔三(市浦中一年)・三浦雄樹(市浦中一年)・三上大輔(市浦中二年)・三和麻美(市浦中二年)・三浦美(市浦中二年)・米谷美保(市浦中三年)・佐々木絵里花(市浦中三年)・古川涉(市浦中三年)
- ◇国民健康優良優良家庭  
三和みあ(相内)・佐藤清一郎(相内)・石井文江(桂川)・佐藤ノリ(脇元)・中村リツ(十三)・山内憲夫(相内)・相坂照衡(十三)・若山道晴(十三)・三和昌市(相内)・猿賀ミツ(相内)・佐藤トミ(相内)・藤本実(相内)・宮本久二(相内)・米谷寛子(十三)・三橋せし(十三)・和嶋由蔵(松成田哲子(脇元))
- ◇献血功労感謝状  
山田知枝子(脇元)・白川敏文(相内)・山沢文徳(桂川)・鳴海勇(相内)・大沢達二(相内)・桑野邦夫(脇元)・鳴海忠(相内)・三和純(相内)・吉田純也(相内)・長利い子(太田)・土藤肇(十三)

この度、民生・児童委員の改選が行われ、14人の方が厚生大臣より委嘱されましたのでご紹介いたします。

任期は平成10年12月1日から平成13年11月30日までの3年間となっております、児童福祉、老人福祉、社会福祉などの福祉全般にわたって行政と共に住民の生活向上をめざして活躍されます。

# 新民生・児童委員を ご紹介します



## 民生・児童委員 名簿

地区	氏名
太田	秋田 洋子
	桂川 越野 清志
	相内 三和 淑子
	三和 平作
	工藤 睿子
磯松	成田 ユリ
	白川 稲子
	伊南 幸男
	葛西 澄江
	山田 節子
脇元	梶引 笑子
	有馬 正年
十三	工藤嘉四蔵
	梶浦 ミナ

大崎漁港に建設中の上ノ国町栽培漁業総合センター(アワビ種苗中間育成施設)の電力源としてクリーンエネルギーを利用する風力発電所が八幡牧野に建設され、十二月七日、稼働セレモニーが行われました。

当日は風速九mと風車の稼働には絶好の強い風が吹いており、福原町長染谷助役が起動スイッチを押すと、風車が勢い良く回り出し発電を開始しました。

夜にはライトアップされる風車は、クリーンなエネルギーの活用だけではなく、本町の観光名所としての期待もされています。



▲風を受けて回転する風力発電所



風力発電所ついに稼働  
“観光名所に”との期待も受け、  
回れ！ 風車！！

友好町村だより ㊥  
かみのくに  
情報ランド

# NEWS フラッシュ

## 介護保険制度施行間近 あすなるホールに垂れ幕掲示

あすなるホール前に「介護保険制度はじまります」と書かれた垂れ幕が掲示されているのをご覧でしょうか。垂れ幕のサイズは横が「メートル」、縦が「メートル」の二色刷りで、平成十二年から開始される介護保険制度のPRを目的に掲示されています。

制度の開始五百日前にあたる十一月十七日には垂れ幕の掲示式が行われました。その中で高松村長が「介護保険制度は住民の負担が大きい制度である。そのため村民の皆さんにもこれを機会に制度への理解を深めて

ほしい」とあいさつ。引き続き垂れ幕の掲示が行われました。

現在、介護保険制度に関して市浦村をはじめ、全国の各市町村が間近に迫った介護保険制度の策定（受入れ準備と事業計画の策定や介護認定申請受付は平成十一年十月一日日から）に向けて決められた介護サービスの中から自分にとって必要なサービスを選択し、より高度なサービスを受けるためには、それに比べて市浦村では「制度を円滑に進めるためには村民の皆さんの理解が不可欠である」と考え、今後、地域懇談会や講演会の開催等を通じて村民の方々に理解を深めていただくことをしております。



あすなるホールに掲示した介護保険制度PRしす

## 地域が一体となって開催 太田振興祭

太田振興会（会長 奈良正勝）主催による「第十六回太田振興祭が十一月八日、太田小学校を会場に開催されました。

太田振興祭は地域の住民が一体となって開催される、アットホームな祭りが特徴で、当日も幅広い年齢層からの参加がありました。

会場内には参加者による生け花・写真・農産物・工芸等の展示がされ、中には熟練の技が冴えわたった作品もありました。午前中は、ソフトバレーで心地良い汗を流し、餅つき会が作



▲見事なパフォーマンスに大きな拍手がありました

太田振興祭

## 住民と行政の意見交換 行政懇談会

市浦村主催による「平成十年度市浦村町内会総合行政懇談会」が、十一月二十四日あすなるホールに、村内各地域の町内会長、高松村長、工藤助役、役場各課長が出席して開催されました。

この懇談会は、住民の代表と行政の代表が一堂に会し、村政に対する理解を深めてもらい、住民から村政に対する意見・要望を行政に反映させることにより、よりよい村づくりを目指す



▲練習の成果を発揮しました

▲PTAのみなさんちダンスを披露



かないようになってしまっ  
てしまった。そのための  
変更をしなければなら  
ない。これは行政に対  
して要望するだけでは  
なく、自分たちが村の  
ために何をしなければ  
いけないか、と考える  
必要がある。と改めて  
今後のムラ作りに対し  
る理解と協力を依頼  
しました。

引き続き懇談会が行  
われ、その中で各町内  
会長が住民の代表とし  
て、要望や提案を発言  
。それに対し、役場各  
課長が行政の代表とし  
て回答する形式で進め  
られました。懇談会の中  
では、村内各所におけ  
る危険区域に対する改  
善、観光施設におけ  
るゴミ収集に対する改  
善等をはじめとした  
さまざまな要望及び提  
案が出され、住民の  
行政に対する高い関  
心や心が表れました。



▲東京ドームの中は青森一色でした

また、青森県内各地で行われている祭りや伝統芸能を発表するコーナーでは、市浦村から参加した十三の砂山踊り保存会の皆さんによって本場の「十三の砂山踊り」が披露されました。哀愁を帯びた十三の砂山が東京ドームに響り響り中、披露される踊りは会場に詰めかけた人々の足を止め、観客から大きな拍手を浴びていました。

## 東

### 京で市浦村をアピール 活彩あおもり大祭典

青森県は今年「文化観光立県」を宣言。その一環として東京ドームに青森県の物産・文化・祭りなどを集めて、青森県のイメージアップを図ることを目的に、十二月四日から六日まで、「活彩あおもり大祭典」が開催されました。期間中は約三十九万人が参加しました。



▲客足がとぎれることはありませんでした

このイベントには当村からも「トーサム」がシジミエキスドリンク、エキス味噌等をはじめとした市浦村ならではの物産を出展しました。市浦村の出展は、来客が途切れることがないほどの盛況ぶりでした。

## 消防・ネットワーク 「防火標語展開催」

火事と救急・救助は一九番

十一月一日から三日間開催されたかきまつりに、消防署では「防火標語展」を開催しました。これは、管内小、中学校を対象に、小学校は四年生以上、中学校は全生徒を対象に募集したところ、二六六点の作品が出品されました。

子供達の目から見た防火に私達大人ももう一度、防火に対する意識を新たにし、火災のない村にしたいと思っています。最後に御協力下さいました全労災、消防団に心からお礼申し上げます。

### 小学校の部

#### ◆最優秀賞

昭元小学校六年 石岡 城幸  
村中の

みんなで作ろう  
防火の輪

#### ◆優秀賞

本田小学校六年 岡 実  
やめようよ

子どもだけの  
火遊びは

十三小学校五年 近藤 祥平  
二度、二度

消してほしいな  
タバコ

相内小学校五年 沢田みゆき  
花火やる

「あつ」の前に  
水用意

### 中学校の部

#### ◆最優秀賞

一年 三和 千花  
「火の用心」

大事なことだね  
お母さん

#### ◆優秀賞

二年 中山 健  
タバコ

あなたが消さなきゃ  
だけが消す

二年 竹谷 雅代  
「消したかな?」

あいまいつたら  
確かめよう

三年 澤田 有妃  
不注意で

不幸にするな  
あなたの暮らし

1月～3月 月額12,800円  
4月～12月 月額13,300円  
付加保険料 月額 400円

### 十三湖の白鳥 趣味の写真展

十三湖はさまざまな野鳥の宝庫となっており、その中の「青森の県鳥」となっている白鳥をモチーフにした写真展を「十三湖白鳥まつり」で開催することになりましたので、みなさんの応募お待ちしております。

#### ▶ テーマ

十三湖の白鳥

#### ▶ 規格

カラブリントECサイズとネガフィルム (各1枚)

#### ▶ 応募資格

市浦村にお住まいの方、又は勤めている方

#### ▶ 応募方法

住所、氏名、電話番号、タイトル、撮影日を記入した応募票を写真の裏に貼り付けて下記送付先に送付又は持参してください。

#### ▶ 応募締切

平成11年1月29日(必着)

#### ▶ 展示場所

第3回十三湖白鳥まつり会場に展示 (場所・十三湖マリナ)

#### ▶ 留意事項

- 応募点数は1人1点までとします。
- 応募作品は返却いたします。また、展示した写真(4ツ切りサイズ)と記念品を応募した全員の方に差し上げます。

#### ▶ お問い合わせ先

十三湖白鳥まつり実行委員会事務局 (市浦村商工会内)

▶ 電話番号 62-2232

#### ▶ 応募先

市浦村経済観光課 商工観光係

▶ 電話番号 62-2111

### 静和園職員募集の お知らせ

津軽北部広域事務組合(特別養護老人ホーム静和園)では、下記により職員を募集しています。

#### ▶ 募集職種

業務員 (1名)

#### ▶ 応募資格

ボイラー・技士免許取得者で昭和38年4月2日以降に生まれた者

#### ▶ 受付期間

平成11年1月6日(火)から

平成11年1月25日(月)まで

#### ▶ 試験日

平成11年2月7日(日)  
及び 2月21日(日)

#### ▶ お問い合わせ先

静和園総務課

#### ▶ 電話番号

57-3101

### 県政モニター募集

#### ▶ 応募資格

県内に居住している満20歳以上の方(ただし、議員、公務員、行政相談員、国やその他の公共団体のモニターになっている方や今後なる予定の方、平成6年度以降に県政モニターを経験した方は除きます。)

#### ▶ 委嘱期間

平成11年5月から  
平成13年3月31日まで

#### ▶ 仕事

- ① アンケートに対する回答 (年4回)
  - ② 県政に関する意見や提言の提出 (随時)
  - ③ 県政モニター会議への出席
- ▶ 謝礼  
1年ごとに記念品を差し上げます。

#### ▶ お問い合わせ先

青森県政策推進室

#### ▶ 電話番号

0177-34-9138

#### 路上駐車はやめましょう。

路上の駐車車は除雪の妨げになります。道路での駐車車はやめましょう。

また、故障などでやむを得ず路上におくときは、目印に赤旗を立ててください。



#### 道路に雪を捨ててください。

除雪車でよせた雪を道路に戻したり、各家庭の雪を道路に押し出したりしないでください。



#### 作業中の除雪車には30m以内に近寄らないでください。

除雪車は重機械であり、前後10m以内は死角となります。また、雪の中に混じっている砕石、ガラス等が飛び散る場合もありますので30m以内には近寄らないようにお願いします。

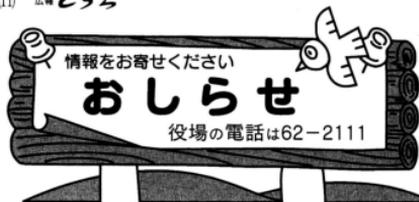


#### 通行規制にご協力。

除雪及び排雪作業を、迅速に、安全に進めるために一時通行止めをすることがあります。また、右側を通行することもあります。ご理解とご協力をお願いします。



除雪作業員も一生懸命がんばっています!  
除雪作業にご協力を!



## 年金住宅融資がより 借りやすくなりました

年金住宅融資は、厚生年金保険の被保険者のみなさまが住宅を建てたりまたは住宅を改良するときに、年金積立金の一部が住宅資金として還元融資される制度です。

### ▶利用できる方

厚生年金保険に加入している方で、加入期間が3年以上ある方。

### ▶資金の使途

新築住宅、マンション・建売・中古住宅購入、住宅改良資金。

### ▶融資金額

所要資金の80%以内で、加入期間などにより最高2,890万円まで。

### ▶融資利率

年2.58%～

[平成10年10月16日現在]

### ▶返済期間

5年から35年まで。「ステップ

返済」も利用できます。

### ▶お問い合わせ先

御青森県厚生年金  
勤労者住宅協会

### ▶電話番号

0177-73-2077

## イザというときの連絡は 落ちついて

警察本部では、110番通報に迅速、的確に対応するために110番通報受理専門官と無線指令官が2人ひと組みで110番通報に対応しておりこちらから順番にお聞きします。

- 1、何があったのか？
- 2、どこで？
- 3、いつ？
- 4、犯人は？
- 5、どんな状況か？
- 6、名前、電話番号？

を落ち着いて、はっきり話してく

ださい。通報内容を聞いている間に無線指令官が呼ばれパトカーが現場に急行しております。

さらに、通信指令課では、ファックス110番を設置しており、耳や言葉の不自由な方から、文書による110番通報も受付けています。ファックス番号0177-22-0110 (通称「第2の110番」)

また、携帯電話やPHSから110番通報する場合は、

- 現場を離れない。(現場の状況、場所を詳しく説明できる)
- 移動しながら話さない。(電波状態により途中で切れてしまう)
- 通報後は電源を切らない。(警察から電話を掛け直すことがある)等に注意してください。

困りごと相談や警察に対する意見・要望などは、警察本部の警察総合相談電話や最寄りの警察署、交番などをご利用ください。

### ▶電話番号

0177-35-9110

## 知っていますか「なんでも110番」

村では村内各地域に「なんでも110番」の相談員を配置し、地域づくりや行政に対する相談等を受け付けています。どんなことでも気軽にご相談ください。

各地域の担当相談員は次のとおりです。

地区名	相 当	T E L
相 内	成田経済観光課長	62-2749
太 田	古川議会事務局長	62-3467
脇 元	桑野企画財政課長	62-2374
磯 松	松江総務課長	62-2472
十 三	中居建設課長	62-3157

## 県内の交通事故概況

青森県交通対策協議会

11月		累計	死者のうち	高 齢 者 の 死 者	
発生	(699)	7,553件 (7,449)		飲 酒 運 転 による死者	51 (38)
死者	10人 (11)	121人 (108)	シートベルト	着用義務者 (着けなければならない人)	19 (16)
傷者	936人 (815)	9,062人 (9,028)	シートベルト	着用者	61 (58)
			シートベルト	着用していない者	33 (41)
			シートベルト	着用していれば助かったと思われる人	15 (20)

( )内は前年。累計は1月から。

## 市浦村の人口と世帯数 平成10.12.1現在

大字名	前月人口	人 口	世 帯 数
相 内	1,265	1,258	415
桂 川	68	68	22
太 田	276	276	89
脇 元	520	518	196
磯 松	312	312	109
十 三	800	801	254
計	3,241	3,233	1,074

# 健康への道

No.123

## 「ガン」シリーズ②

### 「大腸ガン」をこうして防ぐ

また、検診で発見される大腸ガンは、比較的早い時期に見つかるものが多く、その割合は四十%以上とされています。

ということは、検診で早期に「大腸ガン」が発見され、早期に治療できれば予後も良好で、大腸ガン検診は大きな意味を持つ事になります。

○大腸ガンの予防  
大腸ガン発生の要因として考えられるものは①食生活三十五%②喫煙三十%で、①・②を合わせても六割を超えません。

やはり「昔は少なかった病気」から考えてわかる様に、食生活の欧米化が大きな影響を及ぼしているのです。

中でも、大腸ガンの発生に危険な影響を与えているのは、「高脂肪食品」や「繊維の少ない食品」とされています。

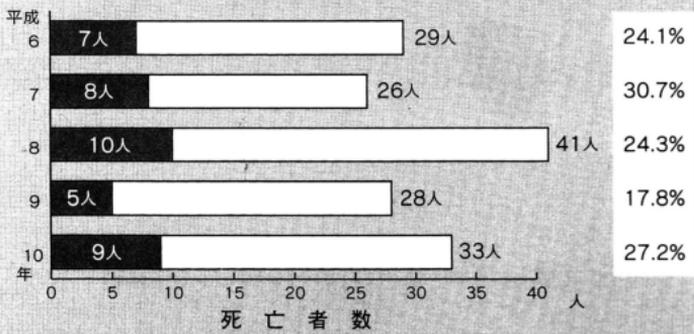
食物繊維が多く含まれている食品（黒きくらげ・ひじき・干しいたけ・豆類など）を積極的にとり、検診を受けることは、ガンの予防にとっても重要なことといえるでしょう。

○増えている大腸ガン  
依然として、ガン死亡のトップを走る肺ガンに次いで劣らず、目立った増加傾向を占めています。

ガン死亡全体に占める割合も、男女とも増加傾向にあり、昭和四十八年からみると約四倍とわがれています。

○大腸ガン検診の有効性  
ガンの中でも、大腸ガンは、発見されたとしても、その予後は比較的良好いとされており五年の生存率は六十五〜七十%となっています。

〈村内における死亡者数からみたガン死亡者数の割合〉



※H6～H9までは1月1日～12月31日までの死亡者数より算出。  
H10については、1月1日～12月11日までの死亡者数より算出。



▼お誕生  
保坂 彩乃 (十三) 幸一  
佐藤 生羽 (相内) 勝行

▼ご結婚

山本 春仁 (大田)  
加藤 明美 (稲垣)  
小野 見靖 (中里)  
中井 千穂 (十三)  
小山内 博彦 (三造)  
三浦 里子 (相内)  
高野 良敏 (東京)  
小野 美由子 (磯松)

広報しらす十一月号で誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

(十二ページ)  
●竹谷みま (福元) 87歳  
●竹谷みち (福元) 87歳